

音声ガイド：首無し仏像

初めて中国から仏教が伝来して 1,000 年以上経った頃、他の宗教が雲仙に入ってきた。1549 年にイエズス会の伝道師が日本人をキリスト教に改宗させた。フェンスのすぐ向こうに見える、頭がない仏像は、二つの宗教が衝突したときに何が起こったかわかる一例だ。

16 世紀の終わりまでにキリスト教が日本中に広まった。実際に島原半島の領主、有馬晴信は 1580 年にキリスト教に改宗して、仏教の僧侶や寺院、象徴となるものを破壊するよう命じた。雲仙の仏教僧の団体は破壊され、その地域はかつての宗教的な名声を取り戻すことはなかった。

近くにある仏像は薬師如来で、薬と癒しの仏だ。この仏像もまた、他の仏像と同様に攻撃の中で首を切られた。それは新しいキリスト教では偶像崇拝と見なされたからだ。キリスト教が禁じられた 1914 年にいくつかの仏像は修復されたが、19 世紀にその多くが再び斬首された。神道の信者は 1868 年の明治維新の後、新しい日本政府は、ヨーロッパやアメリカの帝国に似た国民国家を作ることに集中していた。国家宗教は国造りの前提条件と見なされ、神道と仏教の信仰の分離を命じた布告が発表された。神道は国教となり、神道信者は多くの仏教の象徴やと寺院の構造を破壊した。雲仙は、聖地の中心地であるが、いつも宗教的に調和が取れた場所だったわけではない。